

(別紙1)

## 自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成26年8月7日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091500086		
法人名	社会福祉法人守皓会		
事業所名	グループホーム愛宕苑		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	和歌山県有田市港町29-1		
自己評価作成日	平成26年5月27日	評価結果市町村受理日	平成26年8月18日

### 【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797番地
訪問調査日	平成26年7月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①グループホーム独自の目標:皆で1つの家族、十人十色の笑顔作り、地域交流を大切に。の目標を全職員が心掛け、入所者だけでなく家族も交えた笑顔づくりを目指しています。
- ②地域の交流にも力を入れており、平成24年より開催している秋祭りは、併設している特養の協力を得て前年より規模拡大し、地域住民との交流の機会を深めています。□
- ③入所者が外出を希望する場合は、職員と一緒に付き添いを行い気分転換を行えるようにしています。
- ④協力病院は、本人に必要なに応じて訪問診療に来て頂く事ができるため入所者の心の変化に気付いてもらいやすい。併設している訪問看護ステーションより週1回健康観察や連絡できるよう日頃から看護師と関わりを持ち体制を整えている。
- ⑤年2回行う防災訓練に地域住民や利用者にも参加してもらい、施設の実態を把握してもらうよう促している。また隣接する施設に3日分の避難食を備蓄している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム愛宕苑(以下、事業所という。)は国道に面した2階建て建物(2ユニット)にあり、同一法人の運営する特別養護老人ホームとケアハウスに隣接している。法人理念、行動指針の他事業所独自の施設目標を掲げ、毎朝礼時に唱和し、職員全員で理念等を共有し、その実践に日々取り組んでいる。協力医療機関とは訪問診療など、日頃から密接な連携を図っており、重度化や看取りに向けた支援にも積極的に取り組んでいる。

また、事業所主催の秋祭りには100名を超える多数の近隣住民を招いて開催するなど、地域との交流に向けて意欲的な取り組みを行っている。年2回の消防訓練に加え、南海トラフ地震に備えて、年2回の防災訓練を地域住民と一緒にを行い、災害時における地域との協力体制を構築している。

暮らしの面においては、日曜日や誕生日に利用者が希望する献立をつくり、職員と一緒に食事を楽しんだり、入浴日や時間帯を制限せず、職員配置を工夫しながら利用者の希望に沿った入浴ができるよう、利用者本位の暮らしを支援している。

また、利用者の中には食事の準備や後片付け、洗濯物をたたむ作業などを職員と一緒にしたり、かつての特技を活かして字を書いたり、編み物をしたりする人もおり、事業所は利用者ができることに応じて役割を持ってもらいながら、一人ひとりの暮らし方に寄り添い、支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が法人の理念、グループホーム独自の目標を理解し実践につなげられるよう毎朝の朝礼で唱和している。また「笑顔でのあいさつ」「清掃」を心かけている。	法人の理念、行動指針の他、事業所独自の施設目標を定めている。これらは事業所内に掲示するとともに、朝礼時に全員で唱和することで共有し、理念の実践、施設目標の達成に向けて日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	①秋祭りの案内には、自治会や地域住民へ回覧をして、より多くの方々に参加して頂けるように呼びかけを行って参加していただいている。②近隣公園の清掃ボランティアへの参加をしている。③8月、2月には防火訓練を行っており、地域住民に参加していただいている。	事業所で開催する秋祭りに地域住民に参加を呼びかけ、住民130名以上の参加があった。また、中学生の職場体験の受け入れ、清掃ボランティアへの職員の参加、事業所の防火（災）訓練への地域住民の参加など、事業所は積極的に地域との交流に取り組んでいる。	利用者が日頃の散歩以外に地域の催しや行事に出かける機会を積極的に作り、利用者が事業所内だけでなく地域や社会とのつながりをより実感できる取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民にグループホームの理解を深めていただく機会として、毎年10月に敷地を開放して秋祭りを開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者、家族、職員が集まり、年3回運営推進会議を開催し意見交換を行っている。 入所者より「外食の機会を増やして欲しい」との意見があった為、検討の上、年に2回から4回に増やして実施している。	運営推進会議は、年3回（3・5・10月）、法人代表者や事業所の職員その他、利用者、利用者家族、自治会長、市の担当者、協力医療機関院長が参加し、開催している。会議では事業所の事業計画や活動報告、また、事業所の行事への参加や災害時の協力を呼びかけている。議事録は職員間で回覧し、情報の共有を図るとともに、意見等をサービス向上に活かしている。	

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>①苑の入退所報告は介護保険課との情報交換を行い、交流を深めている。</p> <p>②年に3回運営推進会議には、介護保険課長に出席していただき、運営についての意見をいただいている。</p>	<p>事業所から積極的に市の担当者に運営状況を報告している。また、市の担当者が運営推進会議に出席し、意見交換を行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>①開設以来身体拘束は行ったことはない。</p> <p>②毎月第1火曜日に身体拘束ゼロ委員会を設置している。</p> <p>③ユニットの玄関は開放しているが、建物の正面玄関は国道となっている為、安全第一に考えやむを得ず施錠している。入所者が外出を希望する場合は、職員と一緒に出かけるようにしている。</p>	<p>事業所内に身体拘束ゼロ委員会を設置し、月1回会議を行い、身体拘束のないケアの実践を図っている。また、事業所内の勉強会や法人研修において年1回の身体拘束に関する研修を実施している。ユニット出入口は施錠していないが、建物玄関は自動扉を施錠している。外出願望がある利用者には職員と一緒にについて出るように対応している。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>①同法人施設主催の虐待防止についての勉強会を年に1回行っており参加している。</p> <p>②職員間で何でも話し合える環境づくりを心掛けている。</p> <p>③年に2回管理者との面接の機会を設け悩みを傾聴する等の対応をしている。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護事業の研修出席した職員は伝達講習を行っている。全職員が学ぶ機会を作っている。また、勉強会では、虐待や身体拘束の事例を用いてより理解しやすくまた、意見交換を行っている。</p>	/	/
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結、解約又は改定等の際は、管理者を通じて、入所者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分説明を行い、理解・納得を得ている。</p>	/	/

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族には電話連絡時や面会時、またグループホーム行事に参加された際に要望や不満などの意見を聞くようにしている。また、意見箱を設置して、投函できるようにし、それらの意見を事業運営に反映させている。</p>	<p>利用者とは日頃のコミュニケーションを通して、また家族とは電話連絡時や来訪時に要望等を聴き取り、その内容は申し送りノートに記入し、全職員で情報の共有に努めている。さらに、年2回（1・8月）家族宛に近況報告書を郵送し、家族から要望等を聴き取りやすい取り組みを行っている。外食の機会を増やすなど、利用者や家族からの意見を運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月、職員会議を行い職員の意見や提案を聞いており、また、職員個々との面談時にも意見や要望を聞いて反映している。</p>	<p>管理者は、日頃から職員が話しやすい雰囲気づくりに努めている他、毎月の職員会議においても意見を出し易くなるように配慮している。また、職員に対して年2回の提案月間や、毎年1月に次年度の活動内容についての意見を募るなど、職員からの意見を汲み取りやすい取り組みを行っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>①年度始まりに、職員一人ひとりに目標計画を作成させている。管理者が計画を把握し年に2回職員との面談を実施し職員環境や悩み相談、目標達成に向け助言するようにしている。 ②職員個々の努力や実績は人事考課を行い、昇給や賞与として反映している。</p>	/	/
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月勉強会を2回実施し、職員の個々のスキルアップが図れるよう努力している。また、新人職員に関しては法人全体の新人研修を実施し、各部署においてマニュアルをもとに指導・育成を行っている。</p>	/	/
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>①平成26年6月より、和歌山県地域密着協議会に入会している。活動は現在まだ行われていないが、今後研修の開催や同業者との情報交換の機会が予定されているため、サービスの向上に努めていく事を期待している。 ②近隣事業所への挨拶回りや、地域で行われている研修などに参加している。</p>	/	/

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前調査には管理者、介護支援専門員が必ず同行し、入所者の不安や要望に耳を傾けるように努めている。また、入所初期には情報収集を入念に行い入所前の生活環境に出来るだけ近づけるように本人の希望も多く取り入れ職員間で検討しあっている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>施設利用間もない入所者の家族からの要望や悩みを傾聴し不安を解消出来るようなサービスを提供する。また、事業所として出来ること出来ないことを明確に説明、話し合いをしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事前調査の情報とご家族の情報などを元にケアプランの原案を作成している。その中でまず最優先されるサービスをチームで考え、ひとつずつ丁寧に利用者が満足できるように対応している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家族のような関係性を築き、介護者からの一方的な支援ではなく、ともに炊事、洗濯、掃除や、散歩、買い物、水やりなど、入所者様が興味のある事を本人の出来る範囲で一緒に支援を行っている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族が来苑された時を大切に、必ず近況報告を行うようにしている。また苑の行事には、家族の時間が合えば入所者と一緒に過ごしていただけるように声かけしている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>個人情報に注意しながら、今まで通っていた美容室の利用、馴染みの方の面会、馴染みの場所への外出、居室にも懐かしい家具を持参して頂き使用している。</p>	<p>利用者と一緒に馴染みの美容院に毛染めに行ったり、墓参りに同行するなど馴染みの場所への外出支援を行っている。また、知人の来訪を歓迎するなどの馴染みの人との関係継続の支援にも取り組んでいる。</p>	

21	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>一人ひとりの性格や感情の変化を理解した上で、入所者同士の間に入り、コミュニケーションが取り合え良好な関係を築けるよう努めている。また、イベントやカラーセラピーなど入所者同士が交流できる環境作りを支援している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約が終了した後も、入院された方については見舞い、電話連絡を行っている。他施設に入所された方については、面会へ行くことはあるも家族に対しては会えた時に挨拶する程度である。</p>		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	<p>9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>コミュニケーションや普段の様子から、一人ひとりの思いや希望など汲み取り記録し、スタッフ間で共有できるよう努めている。又、それをケアプランに反映させるようしている。</p>	<p>利用者1～3名に対して職員1名が担当する利用者担当制をしており、担当職員が中心となって利用者の思いや意向を聴き、聴き取りした情報は職員間で共有している。困難な場合は、日頃のコミュニケーションを通して、表情などから察したり、家族から情報を聴き取ることで対応をしている。</p>	
24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>センター方式の活用と家族から情報収集を行い、その人の暮らしぶりを把握するようにしている。また、定期的に担当者会議を行い経過の把握が出来るように努めている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>センター方式を活用して24時間シートを作成。日々の暮らしの中で、出来ること出来ないこと等の把握をするようにしている。日々の変化を申し送りで伝達し、把握するようにしている。</p>		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>各担当者がアセスメントシートを記入し、定期的に担当者会議、ケース会議を行い、本人、家族の要望と現状に即したケアプランを作成している。</p>	<p>介護計画は基本的には半年ごとに、変化があれば随時見直しを行っている。担当者会議には利用者と家族の他、管理者、ケアマネジャー、担当職員が参加し、利用者や家族の意見等を反映した計画書を作成している。モニタリングは毎月実施し、その評価を記録している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子、気づきや工夫を個別記録に記入し、会議や申し送り時に常に職員間で情報を共有し、実践の見直しや介護計画の見直しに活かしている。訪問診療時にDr、薬剤師に現状を報告し医療機関との連携に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>主治医については、本人、家族が希望する医療機関に受診していただいている。また、個別レクリエーションや機能訓練を計画し、本人にとって楽しみや生きがいとなっていたくような支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>民生委員や自治会など地域にある資源との協力は積極的に行うよう体制を整えている。安全面では系列の病院を協力病院として24時間の医療体制を整え安全で豊かな暮らしができるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所者、家族が希望する医療機関に受診することが出来るように支援している。また毎週訪問診療による受診を支援している。</p>	<p>利用者や家族が希望する医療機関で受診できるように支援している。通院は、原則として家族が付き添い、受診後に家族から受診内容を聞き取っている。往診の結果は、電話で家族に報告を行っている。通院、往診共に、受診報告書に受診内容と薬情報を記載し、全職員で共有している。</p>	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>併設している訪問看護ステーションより週1回健康チェックを受けている。入所者の状態や情報、気づきを報告し、入所者急変時などにはすぐに連絡できるよう日頃から看護師と関わりを持ち体制を整えている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時にはサマリーを持参し入所者の情報提供をしている。定期的にお見舞いに行き、病院、家族との情報交換、関係作りに努めている。また、連携している桜ヶ丘病院以外に入院した際も報告、連絡を怠らず情報の共有に努めている。</p>		
33 12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重要事項の説明時に看取りに関する方針と支援内容について説明している。また、看取り介護の勉強会を行い介護職員の方針や対応を共有するよう努め、家族、医療関係者との連絡を密にして看取り介護を行った。</p>	<p>文書化した看取り介護の指針に基づき、契約時に口頭で説明し、本人や家族の希望を聴いている。重度化や終末期に際しては、家族とも十分に話し合い、家族の希望に沿った対応を行っている。看取り介護においては、事業所の職員、医療関係者や家族と連携を密にし、支援に取り組んでいる。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>勉強会等で急変時や事故発生時の訓練を行っており、医療機関への連絡方法や一連の流れを全職員が把握・実践できるよう努めている。また、施設職員の緊急連絡体制を整えている。</p>		
35 13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回行う訓練に地域住民や利用者にも参加してもらい、施設の実態を把握してもらうよう促している。また隣接する施設に3日分の避難食を備蓄している。</p>	<p>年2回の消防訓練の他、年2回の防災訓練を実施している。それぞれ消防署立会いの下で、夜間想定避難訓練や心肺蘇生法の講習も取り入れている。訓練の実施前には、地域住民に回覧板で参加を呼び掛け、毎回4～10人程度が参加している。災害時の避難場所が隣接の特別養護老人ホームとなっているため、同施設にて3日分の水・食料を備蓄している他、事業所内には災害時に有田市より緊急放送が入るラジオを設置している。</p>	



#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>プライベートスペースは入所者の希望にて居室ドア部分に目隠しを貼りプライバシーに配慮している。個々の力に応じ、声かけや対応を行っているが、プライバシーを損ねるような対応にはならないよう努めている。また、個人情報については必要な情報提供や居室の名札の明示など書面にて同意を得ている。</p>	<p>入職時に行っている5日間の新人研修でプライバシーに関する指導をしており、日常においても気付いた事があれば職員間で注意し合っている。また、利用者の居室扉に安否確認用の覗き窓があるが、利用者や家族からの希望に応じて、覗き窓に目隠しフィルムを貼り、廊下側から居室内部が覗けないよう配慮している。</p>	<p>プライバシー確保の観点からすれば、居室扉の覗き窓はその全てを目隠しすることが望ましい。今後、職員間で検討を重ね、利用者家族とも相談しながら、対応に向けての取り組みを期待したい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>コミュニケーションや日常生活の中から入所者の要望を出来るだけ受け入れるようにしている。また、職員の一方向的な支援や介助を行わないように努める。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入所者に無理なく出来ることを手伝ってもらったり趣味を生かした生活を支援している。起床や入浴は希望の時間になるように努め自分のペースで生活できるよう支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>入所者の意思決定で衣類を選んでもらい着てもらい、職員が常に入所者の衣服の乱れや髭そりなどの身だしなみを確認するように心がけている。希望者には第2・4月曜日には訪問理容サービスを受けることができる。</p>		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理が可能な入所者には調理を手伝って頂き、自分のペースで食事ができるよう十分な食事時間を取っている。日曜日、誕生日には入所者の希望する献立を立てている。定期的に個別で外食に行くなどの支援している。</p>	<p>月曜日から土曜日の献立は法人の管理栄養士が作成し、必要な食材を毎日買いに出かけている。買い物には希望する利用者と一緒にいく事もある。利用者は調理や盛り付け、配膳等をその能力に応じて職員と一緒にやっている。お粥メニューでは、希望に応じて茶粥と白粥を選択できるようにしたり、日曜日や利用者の誕生日には希望する献立にするなど利用者の好みに合わせて対応している。バイキング形式や夏にはそうめんやスイカ、冬には有田で採れるみかんなど季節を感じる食材を提供している。年4回程度、公園で弁当を食べたり、外食を楽しむなど食事に変化を持たせている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士による献立をベースにして作成している。栄養面への配慮をし、体重表の管理、食事、水分量を毎日記録し把握している。食事や水分の摂取が困難な方に対しては、管理栄養士に相談し、連携をとっている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>起床時、食後に一人ひとりの力に応じた口腔ケア支援を呼びかけ実施している。就寝時には義歯の管理、洗浄を行っている。また、協力歯科医による勉強会を月1回(第3木曜日)に参加して知識を高めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表の記録を行い、入所者個々に合わせたトイレ誘導を行い、清潔保持に努めている。また、定期的に排泄表を確認し、できるだけトイレにて排泄ができるよう誘導、支援をしている。</p>	<p>排泄表に記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めており、利用者に合わせて、適宜トイレ誘導を行っている。夜間は、3時間おきにトイレ誘導を行ったり、尿とりパットの交換を行うなど、利用者に合わせた排泄の支援に取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便チェック表をつけるとともに1日の水分量の把握をしている。便秘の方には医師に相談し服薬コントロールをしている。また、日常より乳製品の摂取、運動を促したり、腹部マッサージを行っている。</p>		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週3回入浴していただけるよう声かけしている。拒否される方、時間を希望される方等、個々に合わせ入浴をしている。ADLに合わせて中間浴一般浴を設置している。</p>	<p>入浴は原則週に3回、曜日、時間帯の制限はなく、職員配置に工夫をするなどして、できる限り利用者の希望に沿った支援を行っている。入浴困難な利用者には機械浴や適宜の足浴を採り入れている。入浴を拒否する利用者にはタイミングを計って声かけするなどの工夫を行っている。同性介助が基本であるが、入居時に希望を聞いている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜間、良眠していただけるよう個々の入所者の入眠時間を希望に沿う形で促しており、また、日中の活動時間を増やしていく支援を行っている。安眠につながるよう光や音が居室に入らないよう配慮している。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>飲み忘れなどの誤薬が起こらないよう、各職員が責任を持って服薬チェックを行い、リーダーがもう一度確認を行っている。症状が変化した場合、医師、薬剤師へ報告し指示を仰ぐよう統一している。また、薬剤師による薬の種類、効能についての勉強会を年に2回実施している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの生活歴等の情報収集を行い個々に合った用具や嗜好品を使用し楽しみを持って生活してもらっている。また職員は定期的に個々の情報を共有し把握、改善している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>定期的に外出するレクリエーションを企画している。各個人が希望する外出については家族に意向を伝え、計画し実現に向け努めている。外出や外泊は自由に行うことができる。</p>	<p>日常的には食材の買い物に出かけたり、週1回は近隣公園まで30分程の散歩を楽しんでいる。遠方への外出の希望は、家族に意向を伝え、実現できるよう支援している。家族にも参加を呼びかけ、花見(春)や海にドライブに行くなどの行事を実施し、外出の支援に取り組んでいる。</p>	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入所者が管理できる程度で少しの所持金を持っていただき希望時には一緒に買い物に行き欲しい物を購入している。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話対応は予め家族に電話しても良いか意向確認している。できる限り入所者本人が自由に電話できるよう配慮している。手紙も利用者本人が書き家族面会時に渡すようにしている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>施設内だけでなく、施設回りの環境整備を徹底し整理、整頓、清潔にしている。1階ウッドデッキには季節感を実感できる花を植えている。また、過度な飾り付けをせず、季節の行事を取り入れた和やかな空間を作りだせるよう努めている。</p>	<p>日当たりの良い居間兼食堂の一角に畳スペースを設け、ソファやテレビを配置している。利用者は畳スペースで洗濯物をたたんだり、編み物をしたり、思い思いに居場所をつくり日中を過ごしている。居間兼食堂から続くウッドデッキでは、季節の野菜や草花の畑を眺めて過ごすことができる。屋外には喫煙スペースも確保しており、居心地よく過ごせるよう支援している。</p>	<p>居室前廊下の壁に飾っている額入りの絵や写真の高さが、利用者の目線よりも高いため、折角の絵や写真が利用者の目に届きにくくなっている。安全に配慮しつつも設置位置の見直しを行うことが望まれる。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下に机や椅子を設置し入所者が独りになれる空間を作れるよう努めている。また、気の合った利用者同士を近づける、逆に不快な仲の利用者の席は離れるなどの工夫を取り入れている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室入り口のガラス戸には目隠しをし個人のプライバシーを確保する。居室内には使い慣れた家具や馴染みある物を持ってきていただけるよう呼びかけている。</p>	<p>クローゼットやベッドは備え付けとなっている。利用者は家具、テレビ、絵や写真などの思い出の品、また編み物などの趣味の道具などを自由に持ち込んでいる。各居室には大きな窓があり明るく、24時間の換気システムを取り入れ、快適な暮らしを支援している。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの出来ることを理解した上で、その人の力に応じた行動を見守り支援するよう努めている。また、歩行や車椅子スペースの確保、手すり、バリアフリーと自立した生活が送れるよう工夫している</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができてきている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が法人の理念、グループホーム独自の目標を理解し実践につなげられるよう毎朝の朝礼で唱和している。また「笑顔でのあいさつ」「清掃」を心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	①秋祭りの案内には、自治会や地域住民へ回覧をして、より多くの方々に参加して頂けるように呼びかけを行って参加していただいている。②近隣公園の清掃ボランティアへの参加をしている。③8月、2月には防火訓練を行っており、地域住民に参加していただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民にグループホームの理解を深めていただく機会として、毎年10月に敷地を開放して秋祭りを開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者、家族、職員が集まり、年3回運営推進会議を開催し意見交換を行っている。 入所者より「外食の機会を増やして欲しい」との意見があった為、検討の上、年に2回から4回に増やして実施している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	①苑の入退所報告は介護保険課との情報交換を行い、交流を深めている。 ②年に3回運営推進会議には、介護保険課長に出席していただき、運営についての意見をいただいている。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>①開設以来身体拘束は行ったことはない。</p> <p>②毎月第1火曜日に身体拘束ゼロ委員会を設置している。</p> <p>③ユニットの玄関は開放しているが、建物の正面玄関は国道となっている為、安全第一に考えやむを得ず施錠している。入所者が外出を希望する場合は、職員と一緒に出かけるようにしている。</p>		
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>①同法人施設主催の虐待防止についての勉強会を年に1回行っており参加している。</p> <p>②職員間で何でも話し合える環境づくりを心掛けている。</p> <p>③年に2回管理者との面接の機会を設け悩みを傾聴する等の対応をしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護事業の研修出席した職員は伝達講習を行っている。全職員が学ぶ機会を作っている。また、勉強会では、虐待や身体拘束の事例を用いてより理解しやすくまた、意見交換を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結、解約又は改定等の際は、管理者を通じて、入所者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分説明を行い、理解・納得を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族には電話連絡時や面会時、またグループホーム行事に参加された際に要望や不満などの意見を聞くようにしている。また、意見箱を設置して、投函できるようにし、それらの意見を事業運営に反映させている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月、職員会議を行い職員の意見や提案を聞いており、また、職員個々との面談時にも意見や要望を聞いて反映している。</p>		



12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>①年度始まりに、職員一人ひとりに目標計画を作成させている。管理者が計画を把握し年に2回職員との面談を実施し職員環境や悩み相談、目標達成に向け助言するようにしている。 ②職員個々の努力や実績は人事考課を行い、昇給や賞与として反映している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月勉強会を2回実施し、職員の個々のスキルアップが図れるよう努力している。また、新人職員に関しては法人全体の新人研修を実施し、各部署においてマニュアルをもとに指導・育成を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>①平成26年6月より、和歌山県地域密着協議会に入会している。活動は現在まだ行われていないが、今後研修の開催や同業者との情報交換の機会が予定されているため、サービスの向上に努めていく事を期待している。 ②近隣事業所への挨拶回りや、地域で行われている研修などに参加している。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前調査には管理者、介護支援専門員が必ず同行し、入所者の不安や要望に耳を傾けるように努めている。また、入所初期には情報収集を入念に行い入所前の生活環境に出来るだけ近づけるように本人の希望も多く取り入れ職員間で検討しあっている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>施設利用間もない入所者の家族からの要望や悩みを傾聴し不安を解消出来るようなサービスを提供する。また、事業所として出来ること出来ないことを明確に説明、話し合いをしている。</p>		

17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査の情報とご家族の情報などを元にケアプランの原案を作成している。その中でまず最優先されるサービスをチームで考え、ひとつずつ丁寧に利用者が満足できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係性を築き、介護者からの一方的な支援ではなく、ともに炊事、洗濯、掃除や、散歩、買い物、水やりなど、入所者様が興味のある事を本人の出来る範囲で一緒に支援を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来苑された時を大切に、必ず近況報告を行うようにしている。また苑の行事には、家族の時間が合えば入所者と一緒に過ごしていただけるように声かけしている。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報に注意しながら、今まで通っていた美容室の利用、馴染みの方の面会、馴染みの場所への外出、居室にも懐かしい家具を持参して頂き使用している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や感情の変化を理解した上で、入所者同士の間に入り、コミュニケーションが取り合え良好な関係を築けるよう努めている。また、イベントやカラーセラピーなど入所者同士が交流できる環境作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、入院された方については見舞い、電話連絡を行っている。他施設に入所された方については、面会へ行くことはあるも家族に対しては会えた時に挨拶する程度である。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>コミュニケーションや普段の様子から、一人ひとりの思いや希望など汲み取り記録し、スタッフ間で共有できるよう努めている。又、それをケアプランに反映させるようしている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>センター方式の活用と家族から情報収集を行い、その人の暮らしぶりを把握するようにしている。また、定期的に担当者会議を行い経過の把握が出来るように努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>センター方式を活用して24時間シートを作成。日々の暮らしの中で、出来ること出来ないこと等の把握をするようにしている。日々の変化を申し送りで伝達し、把握するようにしている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>各担当者がアセスメントシートを記入し、定期的に担当者会議、ケース会議を行い、本人、家族の要望と現状に即したケアプランを作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子、気づきや工夫を個別記録に記入し、会議や申し送り時に常に職員間で情報を共有し、実践の見直しや介護計画の見直しに活かしている。訪問診療時にDr、薬剤師に現状を報告し医療機関との連携に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>主治医については、本人、家族が希望する医療機関に受診していただいている。また、個別レクリエーションや機能訓練を計画し、本人にとって楽しみや生きがいとなっていただくような支援を行っている。</p>		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や自治会など地域にある資源との協力は積極的に行うよう体制を整えている。安全面では系列の病院を協力病院として24時間の医療体制を整え安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所者、家族が希望する医療機関に受診することが出来るように支援している。また毎週訪問診療による受診を支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	併設している訪問看護ステーションより週1回健康チェックを受けている。入所者の状態や情報、気づきを報告し、入所者急変時などにはすぐに連絡できるよう日頃から看護師と関わりを持ち体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーを持参し入所者の情報提供をしている。定期的にお見舞いに行き、病院、家族との情報交換、関係作りに努めている。また、連携している桜ヶ丘病院以外に入院した際も報告、連絡を怠らず情報の共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項の説明時に看取りに関する方針と支援内容について説明している。また、看取り介護の勉強会を行い介護職員の方針や対応を共有するよう努め、家族、医療関係者との連絡を密にして看取り介護を行った。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等で急変時や事故発生時の訓練を行っており、医療機関への連絡方法や一連の流れを全職員が把握・実践できるよう努めている。また、施設職員の緊急連絡体制を整えている。		

35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行う訓練に地域住民や利用者にも参加してもらい、施設の実態を把握してもらおうよう促している。また隣接する施設に3日分の非難食を備蓄している。		
----	----	--	--	--	--

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートスペースは入所者の希望にて居室ドア部分に目隠しを貼りプライバシーに配慮している。個々の力に応じ、声かけや対応を行っているが、プライバシーを損ねるような対応にはならないよう努めている。また、個人情報については必要な情報提供や居室の名札の明示など書面にて同意を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションや日常生活の中から入所者の要望を出来るだけ受け入れるようにしている。また、職員の一方的な支援や介助を行わないように努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者に無理なく出来ることを手伝ってもらったり趣味を生かした生活を支援している。起床や入浴は希望の時間になるように努め自分のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所者の意思決定で衣類を選んでもらい着てもらい、職員が常に入所者の衣服の乱れや髭そりなどの身だしなみを確認するように心がけている。希望者には第2・4月曜日には訪問理容サービスを受けることができる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が可能な入所者には調理を手伝って頂き、自分のペースで食事ができるよう十分な食事時間を取っている。日曜日、誕生日には入所者の希望する献立を立てている。定期的に個別で外食に行くなどの支援している。		

41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士による献立をベースにして作成している。栄養面への配慮をし、体重表の管理、食事、水分量を毎日記録し把握している。食事や水分の摂取が困難な方に対しては、管理栄養士に相談し、連携をとっている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>起床時、食後に一人ひとりの力に応じた口腔ケア支援を呼びかけ実施している。就寝時には義歯の管理、洗浄を行っている。また、協力歯科医による勉強会を月1回(第3木曜日)に参加して知識を高めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表の記録を行い、入所者個々に合わせたトイレ誘導を行い、清潔保持に努めている。また、定期的に排泄表を確認し、できるだけトイレにて排泄ができるよう誘導、支援をしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便チェック表をつけるとともに1日の水分量の把握をしている。便秘の方には医師に相談し服薬コントロールをしている。また、日常より乳製品の摂取、運動を促したり、腹部マッサージを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週3回入浴していただけるよう声かけしている。拒否される方、時間を希望される方等、個々に合わせ入浴をしていただいている。ADLに合わせ中間浴一般浴を設置している。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜間、良眠していただけるよう個々の入所者の入眠時間を希望に沿う形で促しており、また、日中の活動時間を増やしていく支援を行っている。安眠につながるよう光や音が居室に入らないよう配慮している。</p>		

47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>飲み忘れなどの誤薬が起こらないよう、各職員が責任を持って服薬チェックを行い、リーダーがもう一度確認を行っている。症状が変化した場合、医師、薬剤師へ報告し指示を仰ぐよう統一している。また、薬剤師による薬の種類、効能についての勉強会を年に2回実施している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの生活歴等の情報収集を行い個々に合った用具や嗜好品を使用し楽しみを持って生活してもらっている。また職員は定期的に個々の情報を共有し把握、改善している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>定期的に外出するレクリエーションを企画している。各個人が希望する外出については家族に意向を伝え、計画し実現に向け努めている。外出や外泊は自由にすることができる。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入所者が管理できる程度で少しの所持金を持っていただき希望時には一緒に買い物に行って欲しい物を購入している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話対応は予め家族に電話しても良いか意向確認している。できる限り入所者本人が自由に電話できるよう配慮している。手紙も利用者本人が書き家族面会時に渡すようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>施設内だけでなく、施設回りの環境整備を徹底し整理、整頓、清潔にしている。1階ウッドデッキには季節感を実感できる花を植えている。また、過度な飾り付けをせず、季節の行事を取り入れた和やかな空間を作りだせるよう努めている。</p>		

53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下に机や椅子を設置し入所者が独りになれる空間を作れるよう努めている。また、気の合った利用者同士を近づける、逆に不快な仲の利用者の席は離れるなどの工夫を取り入れている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室入り口のガラス戸には目隠しをし個人のプライバシーを確保する。居室内には使い慣れた家具や馴染みある物を持ってきていただけるよう呼びかけている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの出来ることを理解した上で、その人の力に応じた行動を見守り支援するよう努めている。また、歩行や車椅子スペースの確保、手すり、バリアフリーと自立した生活が送れるよう工夫した作りをしている。</p>		



V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない